

変形性膝関節症に対するインドメタシン ファルネシル及び防已黄耆湯の併用療法 の有効性についての臨床的検討

なが み はる ひこ
長 見 晴 彦

キーワード：関節内水腫，変形性膝関節症，インドメタシンファルネシル，
防已黄耆湯，併用療法

要 旨

関節内水腫をともなう変形性膝関節症86例に対し，インドメタシンファルネシルと防已黄耆湯併用療法を試み投与開始16週後の改善度を評価した結果，著明改善28例（32.6%），改善46例（53.5%）と全体の86.0%に有効であった。特に罹患期間が3年未満，年齢が65歳未満，重症度が軽症以上においてその効果が顕著であった。今回の検討での薬剤性副作用については一部の症例で消化器症状の出現が認められたが，いずれも胃粘膜保護剤の投与により軽快した。今回，症例呈示とともに文献的考察を加え報告する。

はじめに

一般臨床医家にとって日常診療で高齢者はもとより成壮年の変形性膝関節症（OA）に遭遇する機会が多い。本症の大部分は臨床症状として疼痛，関節腫脹，可動域制限が主であり，関節内水腫を伴う事が多い。その治療には通常，理学療法，運動療法，関節穿刺及びヒアルロン酸の関節内注入や非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤（NSAIDs），漢方薬投与などによる対症療法がまず試みられるが，症例の重症度によっては外科的治療の対象

となるケースも少なくない。今回，関節内水腫を伴う変形性膝関節症症例に対してNSAIDsとしてインドメタシンファルネシル（インフリー®）を，漢方薬として防已黄耆湯の併用療法を行いその有効性について臨床的に検討したので報告する。

対 象

2002年11月から2008年3月までに当院へ1) 歩行時の膝関節の疼痛を有し，一次性膝関節症である症例。2) 膝蓋骨跳動にて水腫が認められる症例。3) 消化性潰瘍の既往歴を認めないものあるいは既往歴はあったが現在は消化性潰瘍薬を内服していない症例。4) 重篤な血液，肝障害，腎障害，心機能障害を認めない症例。5) アスピリン

Haruhiko NAGAMI

長見クリニック

連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1